

8

京都市子ども保健医療相談・事故防止センター 「京(みやこ)あんしんこども館」を知っていますか？



- ◆京都市が10年前に梅屋小学校跡地に子どもの安心・安全を守るために作った施設です。
- ◆子どもの病気や育児の不安の相談にベテラン小児科医・保健師・看護師が対応します。
- ◆子ども達に発生しやすい事故の調査と事故を減らすために予防対策を考えています。
- ◆10年間の来館者：26,046名（個人14,192名・団体11,854名）
- ◆10年間の保健医療相談：11,370件（電話相談9,725件）



◆◆◆◆◆事故のアンケート調査にご協力いただきありがとうございました◆◆◆◆◆

今回の情報 骨折・脱臼・打撲

脱臼 7例	肘内障	4
	肩関節	1
	手関節	1
	手首について	1
骨折 5例	肩から転落	2
	後頭部骨折 (抱っつ中に落下)	2
	手首について	1



0歳児の事故報告では、意外と少なかった骨折・捻挫、脱臼でしたが、乳幼児では骨はやわらかく、関節もまだしっかりと固定されていないので気をつけないといけません。事故があった12例では、脱臼（関節）が7例で、骨折（手などの上肢が主）が5例でした。脱臼の多くは手の肘（ひじ）の脱臼です。肘内障（ちゅうないしょう）といいます。

肘内障は寝ている赤ちゃんの両手を引っ張って起こした時や、幼児が両親と手をつないで歩いている時につまずき、両親が急に手を引っぱった時や、遊びでこけた時などに起こりやすいです。このように手を引っ張ると

腕が伸びて、肘の関節の脱臼が起こるのです。子どもは痛みのために突然に泣きはじめ、泣き止んでもその側の手を動かすと痛くて泣きます。その部分の肘を曲げ、内側にしておく痛みが和らぎます。数時間（2時間位）で患部の肘関節部が腫れてきます。動かすと痛む時には整形外科の受診が必要です。

骨折ではベッドから転落して肩を打撲すると鎖骨の骨折が起こります。また後頭部の打撲では、頭蓋骨骨折を起こします。

乳幼児の場合は自ら訴えることが難しく判断が難しいですが腕が腫れたり、動かすと泣く場合には受診が必要です。

ワンポイント

1. 無理に手を引っ張らない。道路に飛び出したり緊急時はやむを得ませんが、例えば両親が子どもの両手を握りブランコ遊びの時などは気をつけましょう。
2. 骨折はほとんどが転落によるものです。まわりの状況・環境等、親が十分に注意しましょう。

何をしているの？

- * 来館者にはセーフティハウスの見学と家庭内事故防止について説明しています。
- * 団体来館者には見学と小児科医による「子育て不安」、「児童虐待」「家庭内事故」等の話をしています。
- * 講習会ではお子さんの「心肺蘇生法講習会」、「チャイルドシート装着、幼児2人同乗用自転車の講習会」もしています。
- * 子どもの事故防止実践・応急手当マニュアルを進呈します（無料）。

場所は？

中京区釜座通丸太町上る梅屋町
(第二赤十字病院南隣)
TEL 代表 075-231-8002
相談 075-231-8005
FAX 075-231-8003
<http://www.anshinkodomokan.jp>